

# AI品質マネジメント 夏合宿 2026

ガバナンスチーム

2026-08-08

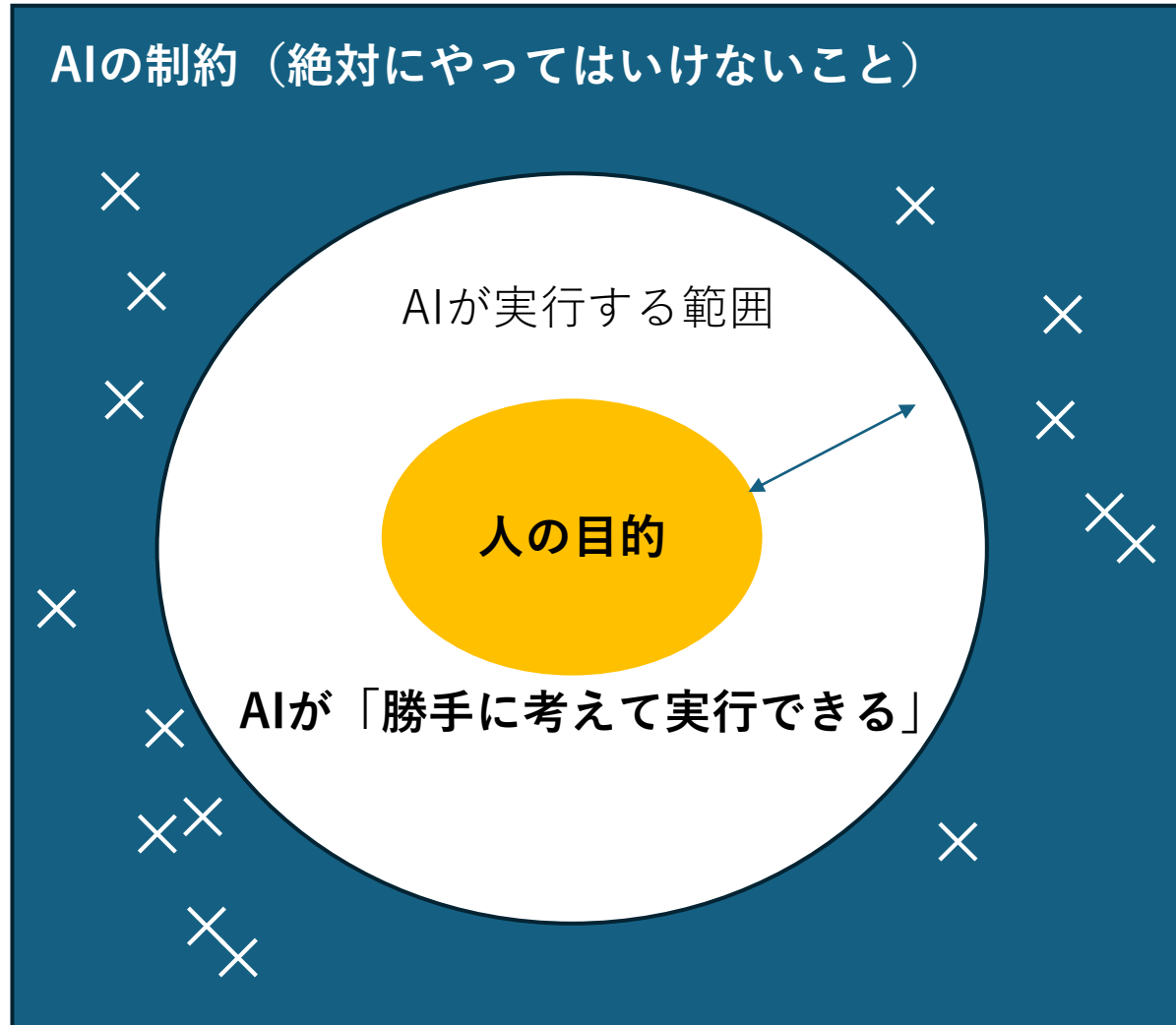
# 目次

- キーワード
- 課題認識
- AIガバナンスの本質
  - AIガバナンス全体領域
  - 人間が求める目的
  - AIが守るべき制約
- 人間とAIとの接点設計
  - 社会受容性
- 今後の人類のあり方
  - マインドセット
  - スキルセット

# キーワード

- 各メンバーの「ガバナンス」イメージを共有
  - 自律性
  - 想定外
  - 社会受容性
  - AI品質マネジメント
  - AIライフサイクル（開発→承認→使用→変更→廃止）
  - CI/CD、MLOPS
  - セキュリティリスク
  - 技術的妥当性
  - 透明性
  - 説明責任
  - AI警察

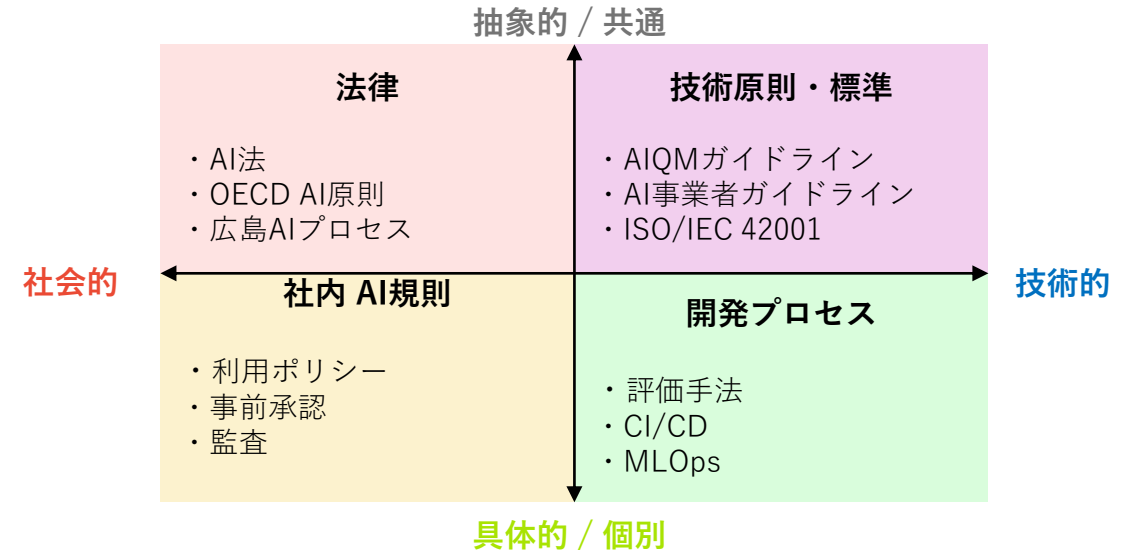
# 課題認識



- 人間の目的とAIの制約の関係
  - AIに目的と制約を正確かつ的確に伝える必要があるが、人間世界の常識や感覚が異なるため、AIが目的を正しく実行できないリスクがある
  - AIが「勝手に考えて実行する」
    - 目的に対して想像以上のアウトプットを得る時もある
    - 目的に対して、人間の常識や感覚から逸脱した方法を選択をして、重大なリスクを起す

# AIガバナンスの本質

- AIガバナンス全体領域
  - 範囲：四象限（右図）
  - 対象：AI + 人間
- AI開発・利用に必要な本質
  - 人間が求める目的
    - AIによって抽象度の高い目的設定が可能に
    - 妥当な目的設定ができているのかどうか分からない → **もやもや**
  - AIが守るべき制約
    - AIの影響範囲が広がり、制約を書き下せない
    - 頑張って網羅しようとはするが、できているか分からない → **もやもや**
- AIガバナンスの本質は「もやもや」
  - AI特有の「もやもや」とは？
    - ①評価軸が分からない
    - ②評価軸を決めても判定基準が決められない
    - ③判定基準を決めても非決定的
    - ④そもそも目的、制約を想定し切れない



# 人間とAIとの接点設計

- 「もやもや」の合意形成プロセス（社会受容性）
  - 社会が受け止められる「もやもや」の上限を決める
    - それ以上になると社会が受け止められない
- 「もやもや」を減らす方向にガバナンス設計
  - AI進化に伴い、「もやもや」の絶対量は増えていくが、  
「もやもや」の大きさは、社会的受容性に照らした相対的なもの
- 「もやもや」を説明する技術（透明性、説明責任）
  - 「もやもや」は暗黙知でもある

# 今後の人類のあり方

- マインドセット
  - もやもやのまま扱える
  - 割り切れないことを怖がらない
  - 本質的に物事を見ようとする
- スキルセット
  - 開発者： もやもやを抱えたままの意思決定スキル
  - ユーザ： AIリテラシー（必ずしもAIに関する話ではない）
    - 悪いことを事例ベースではなく、本質として理解しているか
      - 例：他人の家のピッキングは悪いと知っているが、AIでサイゼリア注文システムをハックするのは悪いと理解できていない